



愛隣幼稚園.....

# 園だより

.....19.11月

## 大人が創る未来を子どもが生きる

今年の秋、千葉は本当に大変でした。9月。台風15号に見舞われ、暴風により大規模な停電が起り、多くの建物が甚大な被害を受けました。第1次産業も大きなダメージを受けました。特に南房総地域では復旧もままならない中、10月にはまた台風19号が追い打ちをかけました。そして先週金曜日には思いもよらない豪雨。これでもかこれでもかと自然災害に見舞われ、被害に遭われている方が多くいらっしゃることを思うと、心が痛みます。やっとの思いで片づけたところに戻た……。私だったらきっともう力が出ないのではないかと思います。丹精込めて育てた農作物が全て駄目になってしまったら……。呆然と立ちつくしてしまうことでしょうか。これは今年たまたまこうなった訳ではありません。地球温暖化の影響が少しずつ少しずつ大きくなって、気候変動を引き起こしている結果です。お天気に文句を言うことはできない、なんて呑気な話ではないのです。地球温暖化は自然現象ではありません。人間が引き起こしている自然破壊によるものです。今年9月にニューヨークで開催された「国連気候アクション・サミット2019」では、世界中の金融機関や企業も2050年までにCO2排出量をゼロにするという宣言に参加し始めています。もはやこの気候変動を食い止めることは、人類の存続に関わる喫緊の課題だと認識しているのです。しかし、日本でこの宣言に加わったのは東京都と横浜市だけです。日本政府としての動きはありません。私たち一人ひとりがこのことを考えなければなりません。〈誰かがどうにかしてくれる〉という問題ではないのです。千葉に住み、日本に住む私たちは、この数年間に起こった多くの自然災害からこのことに気付いているはずで、目の前のことだけでなく、地球規模で起こっていることにも私たちは目を向けていきましょう。それはこれから生きていく子どもたちに対する責任でもあります。国連で16歳の少女が、今の大人たちの行動の“結果”と生きていかなければならないのは、自分たち若者だと訴えます。さらに「もしあなた方が私たちを裏切ることを選べば、私は言います。あなたたちを絶対に許さない、と。」と強い言葉で、大人たちに迫りました。2050年、30年後の世界はどうなっているのでしょうか。私たちはどう行動していくべきなのでしょう。大人の言動の一つ一つが未来に繋がり、その未来を子どもたちは生きていかなければならないのです。30年後の未来を、幼児であるこの子らにはどうすることもできないと、私たちは肝に命じておかなければならないと考えます。30年後、私は生きていますか？もうこの世にはいない確率が高いと思われるかもしれませんが、もしまだ生きていたら、働き盛りになっているであろうこの子らと、平和で美しい地球の上に生きていたいと願います。さて、小さいことからコツコツと私もやってみたく思います。

そんなこんなで台風と豪雨に見舞われた愛隣幼稚園、運動会は2度も延期になり、開催したのは10月21日(月)でした。ところが、平日開催にも関わらず、多くの大人の皆様に運動会を盛り上げて頂きました。(12日だったら、休日だったら参加できたのに……。という皆様、本当に申し訳ありませんでした。)子どもたちは勿論のこと、大人たちも本当に楽しそうで、笑顔がいっぱいで、どの子にもわが子のような眼差しでいてくださり、喜んでくださっていました。こんな運動会ができる愛隣幼稚園が(園長が言うのもどうかと思いますが)私は大好きです。そして、先週金曜日の遠足。災害が起こる豪雨の中、帰園した私たちをお母さんたちが迎えてくださいました。“たまたま母たちの運動会をやっていた”と言ってしまえばそれまでですが、子どもたちも私たちもほっとしました。嬉しかったです！ありがとうございました。緑テラスの養生シートも、子どもたちの着替えも、どれほど助かったことか。助けてほしいと思うときに、快く手を差し伸べてくれる、共に考えてくれる保護者がこんなにたくさんいる幼稚園であることを誇らしく思う、そんな記憶に残る日ともなりました。10月号からの続きのようですが、モデルになる大人の中で育つ子どもは幸せです！